

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第150期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	住友大阪セメント株式会社
【英訳名】	Sumitomo Osaka Cement Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 関根 福一
【本店の所在の場所】	東京都千代田区六番町6番地28
【電話番号】	(03)5211-4500（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部経理グループリーダー 起塚 岳哉
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区六番町6番地28
【電話番号】	(03)5211-4500（代表）
【事務連絡者氏名】	管理部経理グループリーダー 起塚 岳哉
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第149期 第3四半期連結 累計期間	第150期 第3四半期連結 累計期間	第149期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(百万円)	159,266	162,902	217,044
経常利益(百万円)	4,322	10,269	7,666
四半期(当期)純利益(百万円)	1,506	5,013	3,645
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	2,320	6,361	4,889
純資産額(百万円)	124,576	136,427	131,782
総資産額(百万円)	303,974	315,968	309,890
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	3.62	12.04	8.76
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	40.5	42.7	42.1

回次	第149期 第3四半期連結 会計期間	第150期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日
1株当たり四半期純利益(円)	3.54	6.51

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 売上高には、消費税等は含まない。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はない。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期（平成24年4～12月）におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景として緩やかに回復しつつあったが、世界景気の減速等により回復は弱い動きとなった。先行きについても、欧州や中国等、対外経済環境を巡る不確実性が高いなかで、世界景気のさらなる下振れや金融資本市場の変動等が、わが国の景気を下押しするリスクとなり、不透明な状況が続いた。こうした状況のなかで、年末に向けて為替相場は円安傾向となり、経済対策への期待感等から株価は上昇する等、わが国経済は改善の兆しを見せ始めた。

セメント業界においては、民間建築投資の増加が民需を押し上げたことに加え、震災復興やその他災害復旧により官公需、民需ともに増加したことから、セメント国内需要は、前年同期を5.1%上回る33,790千tとなった。一方輸出は、前年同期を3.8%下回った。この結果、輸出分を含めた国内メーカーの総販売数量は、前年同期を3.3%上回る40,356千tとなった。

このような情勢の中で、当社グループは、東日本大震災の復興工事への製品の安定供給や災害廃棄物の広域受入・処理を通じて被災地の復興への貢献に努めることを社会的使命と考え、引き続き積極的に取り組んでいくとともに、持続的発展を目指し、グループを挙げてコスト削減や既存製品の選択と集中、新製品の市場投入等による事業拡大等への取り組みに注力した。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、162,902百万円と前年同期に比べ3,636百万円の増収、経常利益は10,269百万円と前年同期に比べ5,946百万円の増益となった。また、四半期純利益については、5,013百万円と前年同期に比べ3,507百万円の増益となった。

セグメントの業績は、次の通りである。

#### 1 セメント

販売数量が前年同期を上回ったことに加え、リサイクル原燃料の利用拡大により生産コストを削減したことなどから、売上高は、132,650百万円と前年同期に比べ5,913百万円（4.7%）の増収となり、営業利益は、8,792百万円と前年同期に比べ4,268百万円（94.3%）の増益となった。

#### 2 鉱産品

国内の鉄鋼向け石灰石の販売数量が減少したものの、海外の鉄鋼向け石灰石の販売数量が増加したことなどから、売上高は、8,590百万円と前年同期に比べ117百万円（1.4%）の増収となり、営業利益は、採掘コストを改善したことなどから、656百万円と前年同期に比べ174百万円（36.3%）の増益となった。

#### 3 建材

民間の地盤改良工事が減少したことに加え、コンクリート二次製品の販売が減少したことなどから、売上高は、9,403百万円と前年同期に比べ191百万円（2.0%）の減収となり、また、損益は、前年同期に比べ61百万円好転したものの、なお131百万円の営業損失となった。

#### 4 光電子

光通信用部品の販売数量が増加したことなどから、売上高は、3,163百万円と前年同期に比べ696百万円（28.2%）の増収となったものの、製造子会社の量産体制構築に伴う費用が発生したことなどから、営業利益は、59百万円と前年同期に比べ60百万円（50.1%）の減益となった。

#### 5 新材料

PDP（プラズマディスプレイパネル）用フィルターおよび半導体製造装置向け電子材料の販売が減少したことなどから、売上高は、4,872百万円と前年同期に比べ2,786百万円（36.4%）の減収となったが、PDP用フィルターに関する事業の合理化およびコスト削減を進めたことから、営業利益は、564百万円と前年同期に比べ1,022百万円の増益となった。

#### 6 その他

エンジニアリング事業および不動産事業で販売が減少したことなどから、売上高は、4,221百万円と前年同期に比べ111百万円（2.6%）の減収となり、営業利益は、二次電池材料事業における製造子会社の立ち上げ費用が発生したことなどから、7百万円と前年同期に比べ311百万円（97.7%）の減益となった。

## (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はない。

### <会社の支配に関する基本方針>

#### 1. 基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資する者が望ましいと考えている。

もっとも、当社は、株式を上場して市場での自由な取引に委ねているため、会社を支配する者の在り方は、最終的には株主全体の意思に基づき決定されるべきであり、会社の支配権の移転を伴う買付提案に応じるかどうかの判断も、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものとする。

しかしながら、当社株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、株主が買付けの条件等について検討したり、当社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、買付者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者との交渉を必要とするもの等、株主共同の利益を毀損するものもありえる。

このような大規模な買付行為や買付提案を行う者は、例外的に当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと判断する。

#### 2. 基本方針の実現に資する特別な取組み

「私たちは、地球環境に配慮し、たゆまない技術開発と多様な事業活動を通じて、豊かな社会の維持・発展に貢献する企業グループを目指します。」という企業理念のもと、当社は、「セメント事業」及び関連する「鉱産品事業」・「建材事業」を通じて、社会資本整備や重厚産業に不可欠な基礎資材を提供している。また、独自技術の開発や外部技術の導入によって、「光電子事業」・「新材料事業」等を展開し、先端技術分野向けの部材や各種材料の供給を行っている。そして、これら5つの事業を効率的に運営することにより、経営の安定化と着実な成長を実現し、社会への貢献と株主の期待に応えてきた。

また、これら5つの事業に加え、現在、当社が事業拡大のため、もっとも注力している新たな事業の一つが「二次電池材料事業」である。

「光電子事業」・「新材料事業」・「二次電池材料事業」の手がける分野は、市場ニーズの変化や、競争が激しいものの、今後とも市場の拡大が期待できる分野である。今後は、当社独自の技術力に加え、他社・各種研究機関との提携、共同研究を通じて、より早く、より低コストで、より付加価値の高い製品を開発・供給することで、事業の拡大に努めるとともに、当社が長年培ってきた有形・無形の経営資源を活用し、企業価値を高めていく。また、株主、地域社会、取引先、従業員その他ステークホルダーとの信頼関係を維持するとともに、各ステークホルダーの信頼にこたえるべく努力していく。

また、当社は、「監査役設置会社」の形態を採用し、業務に精通した取締役と経営に対する監督機能の強化を図るために選任された独立役員である社外取締役からなる取締役会における審議等を通じて的確な判断を行い、業務の効率化に努めるとともに、監査役は監査機能の充実を図っている。

さらに、経営における意思決定・監督機能と執行機能の分離による各々の機能の強化や意思決定の迅速化と権限・責任の明確化により経営の効率化を図るため、「執行役員制度」を導入している。

#### 3. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、上記基本方針に基づき、平成20年6月27日開催の当社第145回定時株主総会において株主の承認をえて、当社株式の大規模買付行為への対応策（以下「旧プラン」という。）を導入し、その後、平成23年5月13日に開催された当社取締役会において、旧プランの内容を一部改定した上で更新すること（以下改定後のプランを「本プラン」という。）を決定し、平成23年6月29日開催の第148回定時株主総会において、承認された。

本プランの概要については、以下の通りである。

## 本プランの対象となる当社株式の買付け

本プランの対象となる当社株式の買付けとは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（以下、かかる買付行為を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者等」という。）とする。

## 特別委員会の設置

当社取締役会は、大規模買付ルールに則った手続きの進行ならびに当社の株主の利益及び当社の企業価値を守るために適切と考える方策を取る場合におけるその判断の合理性及び公正性を担保するため、当社取締役会から独立した機関として特別委員会を設置する。

## 大規模買付ルールの概要

当社が設定する大規模買付ルールの概要は、以下の通りである。

### 1) 大規模買付者等による意向表明書の当社への事前提出

大規模買付者等が大規模買付行為を行おうとする場合には、まず当社代表取締役宛に、大規模買付ルールに従う旨の誓約及び大規模買付者等の名称等を日本語で記載した意向表明書を提出する。

### 2) 大規模買付者等による必要情報の提供

当社は、意向表明書受領後、大規模買付者等から当社取締役会に対して、株主の判断及び取締役会としての意見形成のために提供を求める必要かつ十分な情報（以下「大規模買付情報」という。）のリストを当該大規模買付者等に交付し、大規模買付者等は、本大規模買付情報のリストに従い、本大規模買付情報を当社取締役会に提出する。

### 3) 取締役会による評価期間等

当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者等が当社取締役会に対し大規模買付情報の提供を完了した後、当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間を設定する。

## 大規模買付行為が為された場合の対応方針

### 1) 大規模買付者等が大規模買付ルールを遵守した場合

当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置はとらない。

但し、大規模買付者等が大規模買付ルールを遵守した場合であっても、当該大規模買付行為が、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと当社取締役会が判断する場合には、例外的に、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として必要かつ相当な範囲内で、新株予約権の無償割当て等、会社法その他の法律が認める対抗措置をとることがある。

### 2) 大規模買付者等が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者等が大規模買付ルールを遵守しなかった場合で、かつ当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保するために必要であるときには、当社取締役会は、新株予約権の無償割当て等、会社法その他の法律が認める対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗することとする。

### 3) 対抗措置の発動の手続き

対抗措置をとる場合には、その判断の合理性及び公正性を担保するために、まず当社取締役会は対抗措置の発動に先立ち、特別委員会に対し対抗措置の発動の是非について諮問し、特別委員会は十分検討した上で対抗措置の発動の是非について勧告を行うものとする。

当社取締役会は、対抗措置の発動の是非を判断するにあたり、特別委員会の勧告を最大限尊重する。

### 4) 株主意思確認総会の開催

当社取締役会は、対抗措置の発動勧告について、特別委員会が対抗措置の発動に関してあらかじめ株主の意思を確認するべき旨の留保を付した場合であって、当社取締役会が、適切と判断する場合には、実務上可能な限りすみやかに株主総会（以下「株主意思確認総会」という。）を開催し、対抗措置の発動に関する株主の意思を確認することができるものとする。

株主意思確認総会を開催する場合には、当社取締役会は、株主意思確認総会の決議に従う。

## 本プランの有効期間

本プランの有効期間については、平成23年6月29日開催の当社第148回定時株主総会終結時から平成26年6月開催予定の第151回定時株主総会の終結時までとする。

4. 本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

当社取締役会は、次の理由から上記3.の取組みが基本方針に沿い、株主の共同の利益を損なうものではなく、また当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと判断している。

買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則をすべて充足している。また、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」その他の買収防衛策に関する実務、議論を踏まえた内容となっており、合理性を有するものと考えている。更に、本プランは、株式会社東京証券取引所及び株式会社大阪証券取引所の定める買収防衛策の導入に係る諸規則等の趣旨に合致するものである。

株主意思を重視するものであること

本プランは、平成23年6月29日に開催した第148回定時株主総会での承認により発効しており、株主の意思が反映されている。

また、当社取締役会は、一定の場合に、本プランに定める対抗措置の発動の是非について、株主意思確認総会において株主の意思を確認することとしている。

更に、本プラン更新後、有効期間満了前であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の意思が反映される。

当社取締役の任期が1年とされていること

当社は、取締役の任期を1年としており、経営陣の株主に対する責任をより明確なものとしている。また、本プランは、株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されるものとしていることから、取締役選任議案に関する議決権の行使を通じて、本プランに対する株主の意思を反映させることも可能となっている。

特別委員会の判断の重視と情報開示

本プランにおける対抗措置の発動等の運用に際しての実質的な判断は、独立性の高い社外取締役及び社外有識者等で構成される特別委員会により行われることとされている。

また、その判断の概要については株主に情報開示をすることとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に適うように本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されている。

合理的な客観的要件の設定

本プランにおける対抗措置は、合理的な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえる。

デッドハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株券等の大規模買付者等が指名し、株主総会で選任された取締役により、廃止することができるものとして設計されており、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではない。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2,856百万円である。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

(4) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に計画中であった重要な設備の新設について完了したものは、次の通りである。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	完了年月
当社 鉱産品事業部 小倉鉱業(株)	福岡県北九州市	鉱産品	平尾台共同事業	平成24年7月

また、当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は次の通りである。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手及び完了予定	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着工	完了
スミセイ海運(株)	東京都 千代田区	セメント	セメントタンカー (8,000t積1隻) 建造	2,145	-	自己資金及び 借入金	平成24年11月	平成26年2月

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,470,130,000
計	1,470,130,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	427,432,175	427,432,175	東京証券取引所 市場第1部 大阪証券取引所 市場第1部	単元株式数は1,000株である。
計	427,432,175	427,432,175	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	427,432,175	-	41,654	-	10,413

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。



(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,131,000	-	単元株式数は1,000株である。
完全議決権株式(その他)	普通株式 411,630,000	411,630	単元株式数は1,000株である。
単元未満株式	普通株式 4,671,175	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	427,432,175	-	-
総株主の議決権	-	411,630	-

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
住友大阪セメント株式会社	東京都千代田区六番町6-28	11,131,000	-	11,131,000	2.60
計	-	11,131,000	-	11,131,000	2.60

## 2【役員の状況】

該当事項なし。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	27,237	33,139
受取手形及び売掛金	2 47,676	2 46,054
有価証券	0	0
商品及び製品	6,831	6,417
仕掛品	1,465	2,853
原材料及び貯蔵品	9,544	9,638
繰延税金資産	1,717	1,604
短期貸付金	689	543
その他	2,265	2,085
貸倒引当金	357	331
流動資産合計	97,069	102,006
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	152,650	154,829
減価償却累計額	101,961	104,000
建物及び構築物(純額)	50,689	50,829
機械装置及び運搬具	369,325	377,336
減価償却累計額	322,940	330,448
機械装置及び運搬具(純額)	46,384	46,887
土地	39,080	38,944
建設仮勘定	7,783	7,626
その他	32,218	33,150
減価償却累計額	17,354	17,790
その他(純額)	14,864	15,359
有形固定資産合計	158,802	159,648
無形固定資産		
のれん	649	397
その他	3,506	3,161
無形固定資産合計	4,156	3,559
投資その他の資産		
投資有価証券	40,663	42,752
長期貸付金	1,787	1,598
繰延税金資産	905	834
その他	7,349	6,371
貸倒引当金	843	802
投資その他の資産合計	49,862	50,754
固定資産合計	212,821	213,961
資産合計	309,890	315,968

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	26,541	27,507
短期借入金	33,839	34,104
1年内返済予定の長期借入金	21,169	10,634
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払法人税等	2,183	2,369
賞与引当金	2,058	970
災害損失引当金	6	-
その他	10,100	12,648
流動負債合計	105,899	98,235
固定負債		
社債	15,000	15,000
長期借入金	36,200	44,492
繰延税金負債	9,602	10,316
退職給付引当金	1,392	1,325
役員退職慰労引当金	234	210
資産除去債務	299	294
その他	9,478	9,665
固定負債合計	72,207	81,305
負債合計	178,107	179,541
純資産の部		
株主資本		
資本金	41,654	41,654
資本剰余金	31,084	31,084
利益剰余金	44,865	48,174
自己株式	1,972	1,984
株主資本合計	115,630	118,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,822	16,137
為替換算調整勘定	55	59
その他の包括利益累計額合計	14,767	16,078
少数株主持分	1,384	1,420
純資産合計	131,782	136,427
負債純資産合計	309,890	315,968

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	159,266	162,902
売上原価	127,163	126,481
売上総利益	32,102	36,421
販売費及び一般管理費	27,360	26,483
営業利益	4,742	9,938
営業外収益		
受取利息	62	81
受取配当金	1,225	911
持分法による投資利益	-	98
受取営業補償金	-	326
その他	475	831
営業外収益合計	1,763	2,250
営業外費用		
支払利息	1,449	1,274
持分法による投資損失	11	-
その他	722	644
営業外費用合計	2,183	1,919
経常利益	4,322	10,269
特別利益		
固定資産売却益	32	70
投資有価証券売却益	86	4
受取補償金	313	-
その他	5	-
特別利益合計	438	74
特別損失		
固定資産除却損	1,161	547
固定資産売却損	12	35
投資有価証券評価損	21	16
減損損失	508	462
事業再構築損	-	607
災害による損失	247	-
その他	8	30
特別損失合計	1,959	1,701
税金等調整前四半期純利益	2,801	8,642
法人税、住民税及び事業税	1,026	3,383
法人税等調整額	235	208
法人税等合計	1,262	3,592
少数株主損益調整前四半期純利益	1,538	5,050
少数株主利益	32	36
四半期純利益	1,506	5,013

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,538	5,050
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,838	1,314
為替換算調整勘定	19	3
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益合計	3,858	1,311
四半期包括利益	2,320	6,361
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,352	6,324
少数株主に係る四半期包括利益	32	36

**【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】**

当第3四半期連結会計期間より、SOC VIETNAM CO., LTD. を連結の範囲に含めている。

**【会計方針の変更等】**

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正(「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律 平成23年12月2日 法律第114号」及び「法人税法施行令の一部を改正する政令 平成23年12月2日 政令第379号」)に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更している。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ262百万円増加している。



【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

銀行借入金等に対する保証債務は次の通りである。

銀行借入金に対する保証債務

前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
押上・業平橋駅 周辺土地区画整理組合	13百万円		- 百万円
計	13	計	-

生コンクリート協同組合からの商品仕入債務に対する保証債務

前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
(株)ブラスト	77百万円	塚本建材(株)	133百万円
塚本建材(株)	42	(株)ブラスト	96
その他(2社)	24	その他(1社)	2
計	144	計	233

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日の末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったが、満期日に決済が行われたものとして処理している。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次の通りである。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	3,558百万円	3,109百万円
支払手形	1,206	1,209

(四半期連結損益計算書関係)

1 事業再構築損

新材料セグメントの高機能フィルム事業において事業の見直しを行い、プラズマディスプレイパネル用フィルター製品の生産を終了することに伴う損失である。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産にかかる償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次の通りである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	14,635百万円	12,803百万円
のれんの償却額	140	134

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,665	4.0	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,665	4.0	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント							注1 調整額 (百万円)	注2 四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	セメント (百万円)	鉱産品 (百万円)	建材 (百万円)	光電子 (百万円)	新材料 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)		
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	126,737	8,472	9,595	2,466	7,659	4,333	159,266	-	159,266
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,165	3,004	1,354	13	0	3,732	10,271	10,271	-
計	128,902	11,477	10,949	2,480	7,659	8,066	169,537	10,271	159,266
セグメント利益又は セグメント損失( )	4,524	481	193	119	457	319	4,794	52	4,742

(注) 1. セグメント利益の調整額 52百万円は、セグメント間取引消去である。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(固定資産に係る重要な減損損失)

「セメント」セグメントにおいて保有している原料地等について、将来の使用が見込まれなくなったために減損損失を計上した。なお、当該減損損失の計上額は298百万円である。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント							注1 調整額 (百万円)	注2 四半期連結 損益計算書 計上額 (百万円)
	セメント (百万円)	鉱産品 (百万円)	建材 (百万円)	光電子 (百万円)	新材料 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)		
売上高									
(1)外部顧客に対する 売上高	132,650	8,590	9,403	3,163	4,872	4,221	162,902	-	162,902
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,556	3,186	1,331	1	7	3,922	11,007	11,007	-
計	135,207	11,776	10,735	3,164	4,880	8,144	173,909	11,007	162,902
セグメント利益又は セグメント損失( )	8,792	656	131	59	564	7	9,949	11	9,938

(注) 1. セグメント利益の調整額 11百万円は、セグメント間取引消去である。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(固定資産に係る重要な減損損失)

「セメント」セグメントにおいて保有している賃貸用資産及び生コンクリート製造事業用資産について、当該資産グループから得られる回収可能価額が、帳簿価額を下回ることから、減損損失を計上した。なお、当該減損損失の計上額は411百万円である。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

### (減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正(「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律 平成23年12月2日 法律第114号」及び「法人税法施行令の一部を改正する政令 平成23年12月2日 政令第379号」)に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税に基づく減価償却方法に変更している。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ「セメント」で165百万円、「鉱産品」で71百万円、「建材」で2百万円、「光電子」で17百万円、「新材料」で3百万円、「その他」で2百万円増加している。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	3円62銭	12円04銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,506	5,013
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,506	5,013
普通株式の期中平均株式数(千株)	416,365	416,308

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

該当事項なし。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

住友大阪セメント株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 金子 秀嗣 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原口 清治 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宮沢 琢 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている住友大阪セメント株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、住友大阪セメント株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていない。